

製品名: AKAP 79 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab06725**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	47kDa

抗原情報

遺伝子名	AKAP5
別名	AKAP5; AKAP79; A-kinase anchor protein 5; AKAP-5; A-kinase anchor protein 79 kDa; AKAP 79; H21; cAMP-dependent protein kinase regulatory subunit II high affinity-binding protein
遺伝子 ID	9495.0
SwissProt ID	P24588
免疫原	抗血清はヒト AKAP5 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 1-50

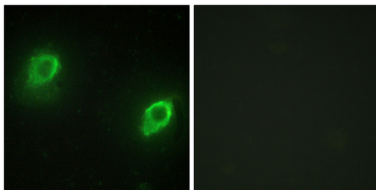
背景

A キナーゼアンカータンパク質 (AKAP) は、構造的に多様なタンパク質群であり、共通の機能としてプロテインキナーゼ A (PKA)

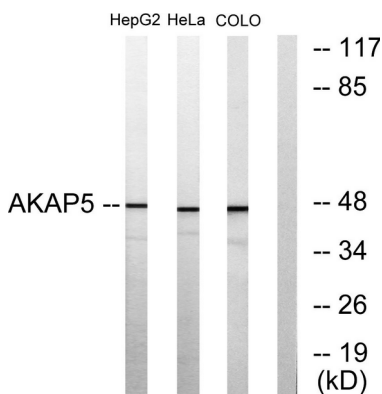
の調節サブユニットに結合し、ホロ酵素を細胞内の特定の場所に閉じ込める。この遺伝子は AKAP ファミリーのメンバーをコードしている。コードされているタンパク質は、PKA の RII- β 調節サブユニット、プロテインキナーゼ C、およびホスファターゼカルシニューリンに結合します。AKAP は主に大脳皮質に発現しており、シナプス後皮質 (PSD) に PKA タンパク質をアンカーし、シナプス後イベントの調節に関与していると考えられています。また、T リンパ球にも発現しており、カルシニューリン依存性 NFAT の脱リン酸化を阻害することでインターロイキン-2 の転写を阻害する働きがあると考えられています。 [RefSeq 提供、2008 年 7 月]、ドメイン:両親媒性ヘリックスを形成すると予測される RII- α 結合部位は、R サブユニット二量体の相補的の表面とのタンパク質間相互作用に関与する可能性があります。機能:PKA タンパク質を細胞骨格や細胞小器官関連タンパク質に固定し、cAMP によって運ばれるシグナルを特定の細胞内エフェクターに標的化する可能性があります。 β 2 アドレナリン受容体 (β 2-AR) との結合は、 β 2-AR シグナル伝達経路を制御するだけでなく、 β 2-AR シグナル伝達カスケードを遮断することで PKA による活性化も制御します。その他: N 末端領域は塩基性が高く、カルモジュリンとの相互作用に必要です。類似性: AKAP ドメインを 1 つ含みます。細胞内局在: 微粒子画分と関連しています。サブユニット: cAMP 依存性タンパク質キナーゼ (PKA) の RII- β 調節サブユニットの二量体、およびタンパク質キナーゼ C (PKC) とホスファターゼカルシニューリン (PP2B) に結合するタンパク質です。各酵素は、アンカータンパク質に結合すると阻害されます。 β 2 アドレナリン受容体にも結合する。組織特異性:主に大脳皮質と前脳のシナプス後密度に存在し、副腎髄質、肺、下垂体前葉にもわずかに存在する。

研究分野

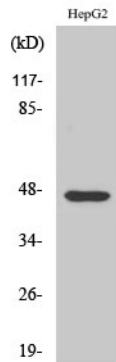
画像データ



AKAP5 抗体を用いた HeLa 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



AKAP5 抗体を用いた HepG2 細胞、HeLa 細胞、および COLO205 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーン合成ペプチドでブロッキングされている。



AKAP 79 ポリクローナル抗体を 1: 1000 に希釈して様々な細胞をウェスタンブロット分析した。